

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第2号

令和2(2020)年5月22日
栃木県農業環境指導センター

ほ場をよく観察し、発生の少ないうちに病害虫防除を行いましょう！

予想期間5月下旬～6月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・昨年10月の再生稲調査での本病の発生は平年並(平年比70%：株率)。(±)
・昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の発生量は平年並。(±) ウイルスの保毒虫率は平年並(県平均6.7%)。(±)
- (3) 対 策 ・昨年発生が多かった地域では、地域ぐるみで本田期防除を実施する。
- (4) 備 考 ・県内の保毒虫率は、県中南部では高い(防除が必要とされる保毒虫率10%を超える)地点が複数確認されたほか、県北部ではやや上昇傾向にあるので注意する。
・[令和元\(2019\)年度植物防疫ニュースNo.9](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比52%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並～少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・開花・出穂期での発生がない場合でも、不稔粒発生や登熟期連続降雨などによって発生することがある。今年是不稔粒が散見されているので、天候やほ場をよく確認し、必要に応じて追加防除を行う。
・使用薬剤は、同系統の薬剤の連用を避け、収穫前日数に注意して選定する。
- (4) 備 考 ・[令和元\(2019\)年度植物防疫ニュース No.13](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご(親株) ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・向こう1か月の気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・本ほで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ほ作業後に親株の管理作業を行わない。
・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで、作全体の化学農薬の散布回数を減らし、抵抗性の発達を抑制する。
・気門封鎖剤は5日程の間隔をおき、複数回散布する。
- (4) 備 考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 きゅうり ベと病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い(平年比225%：ほ場率、平年比474%：株率)。(＋)
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並～少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・株元をマルチ等で覆って、雨滴の跳ね上がりを防止し、整枝や摘葉等を適切に行い、風通しを良くする。
ハウス栽培では換気を行い、過湿防止につとめる。
・発病葉や被害残渣はほ場外に持ち出し適切に処分する。
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
・ほ場をよく観察し、発生の少ないうちに薬剤散布を行う。
- (4) 備 考 ・[キュウリベと病菌薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 果樹 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：多い
- (2) 根 拠 ・現在のフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。(+)
・昨年のスギ・ヒノキの球果量は多い。(+)
- (3) 対 策 ・夜温が下がらない蒸し暑い日の日没時に飛来が多い。こまめに園内を観察し、飛来が認められたら防除する。
・4mm 目合以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
- (4) 備 考 ・未発生園での過度な防除は天敵相を破壊し、他の害虫種の多発に繋がるため注意する。
・山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。

6 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
トマト	灰色かび病	やや多	多	たまねぎ	べと病	やや多	多
	コナジラミ類	少	やや少	なし	黒星病	やや少	平年並
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多	きく	白さび病	多	多
	コナジラミ類	多	多		ハダニ類	平年並	やや多

○ウメ・モモ・スモモ・サクラ クビアカツヤカミキリ（特定外来生物）

- ・6月になるとクビアカツヤカミキリの成虫や、幼虫が出すフラス（木くず）の発生が盛んになります。県内での発生地域は拡大傾向にあるので、これまで発生が確認されていない園地においても見回りを行いましょう。発見時には農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・[クビアカツヤカミキリ注意喚起チラシ](#)を当センターHPに掲載中。

○施設栽培の病害虫

- ・トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、施設内の害虫が野外へ飛散しないよう、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込み等で防除しましょう。特に、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。
- ・栽培末期の病害虫は、各種薬剤に抵抗性を発達させている可能性があります。葉かき後の葉や残渣に付着した病害虫の拡散防止のため、そのままほ場内外に放置しないようにしましょう。

○飼料用トウモロコシ等 ツマジロクサヨトウ

- ・ツマジロクサヨトウは、昨年初めて日本国内での発生が確認された広食性のヤガ科害虫です。本虫の防除には早期発見が重要であることから、日頃からほ場の見回りを行いましょう。
- ・[ツマジロクサヨトウに注意しましょう](#)を当センターHPに掲載中。

○県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用等について啓発活動を行います。

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

1か月気象予報（予報期間5月23日から6月22日 5月21日気象庁発表）

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10％	30％	60％
降水量	30％	40％	30％
日照時間	40％	40％	30％

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。